



Michigan Newsletter

August 2025

No.11

ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

1. ミシガン州で盆踊り！滋賀の魅力を PR

ページ 1～2

草の根交流

1. 草津市使節団員ミシガン州を訪問
2. セントジョンズ市の野外コンサートにて
3. 元研修生と振り返る、「ミシガン」船上のプログラム

ページ 2～6

ミシガントピック

1. ミシガン州政府機関が閉鎖の可能性？

ページ 6

経済交流

1. ミシガン州で盆踊り！滋賀の魅力を PR

8 月 10 日、デトロイト市から北に 20 キロほどの場所にあるクランブルック・ハウスアンドガーデンズ内の広場にて、マイボンフェスティバルが開かれました。五大湖太鼓センターと、クランブルック内の国定歴史建造物等の発信を行っているクランブルックセンターの共催で、「ミシガンでも盆踊りを」というミッションで始まったこのイベントは今年で 3 回目。750 人を超える参加者が集まりました。



クランブルック・ハウスアンドガーデンズに広がる庭園の中には日本庭園も含まれ、この日本庭園はまもなく改修が終了する予定です。昨年 11 月、「THE シガパーク」の魅力を高めるため、滋賀県職員が視察を行った場所でもあります。

滋賀県の PR スペースをいただき、滋賀県茶業会議所から提供いただいた琵琶湖かぶせの水出し茶の試飲を実施しました。150名分の試飲をイベント中に提供し、ミシガン州の 8 月にしては暑い週末となったこの日(といっても 30℃程度ですが)、ミシガン州立大学連合日本センターのプログラムで彦根市に滞在した学生、これから滞在する予定という興奮気味の学生、休暇で日本に行く予定があるという方等、盆踊りの合間にたくさんの方が立ち寄ってくださりました。

今回、スポーツ課より提供いただいた、ワールドマスターズゲームズ 2027 関西大会の PR を初めて行いました。30 歳以上のスポーツ愛好家であれば誰でも参加できる国際総合競技大会が 2027 年5月 14 日～30 日に関西一円で開催されるということで、ミシガン州の皆さんにも、このイベントを日本への、滋賀への旅行を計画するきっかけにしてもらえないか呼びかけました。ミシガン州は自然も多くアウトドアが盛んで、スポーツ愛好家も多いのではないかと予想していたのですが、反応は上々で、数名がメーリングリストにその場で登録してくれました。家族がハーフマラソンが大好きで、しかも日本に行きたいから完璧、と大喜びのお母さまの声もありました。大会開催まで PR 期間はまだまだあるので、今後の同様のイベントでもできる限り PR していこうと思います。



草の根交流

1. 草津市使節団員、ミシガン州を訪問

8月21日～28日、姉妹都市であるミシガン州ポンティアック市との友好親善と相互理解を深めるため、草津市から使節団員がミシガン州を訪れました。ポンティアック市内の高校や大学、市役所等を訪問され、そのうち、州都ランシング市訪問時に同行させていただきました。



州議事堂前にて。

一か所目の訪問先となる州議事堂は、ミシガン州議会の上下両院の議場のほか、州知事室等があり、国定歴史建造物にも指定されている州を象徴する美しい建物です。ガイドツアーで美しい装飾のドーム空間や、上院および下院の議場等を見学。その後、ポンティアック草津姉妹都市委員会の代表でもあり、州下院議員でもあるカーター氏の計らいで、使節団員は下院の議場に入場し、討議前に議員全体に紹介されるという場面もありました。州最大の日本人コミュニティを有するノバイ市、滋賀県内高校ともつながりのあるトロイ市、愛知県豊田市の姉妹都市でもあるデトロイト市、広島県防府市と姉妹都市のモンロー市等を選挙区とする下院議員の方々にも興味を持ってもらいました。



州議事堂内部。

その後、二カ所目の訪問先となる、ミシガン州立大学内のミシガン州立大学連合日本センター(以下 JCMU)イーストラッシングオフィスを訪問。1989 年に設立された JCMU は、ミシガン州にある 15 の州立大学によるコンソーシアムで、滋賀県彦根市にある施設で、ミシガン州等からの大学生に日本語プログラムを、滋賀県に暮らす人たちに英語プログラムを提供しており、これまでに

3,500 人を超えるアメリカの大学生が留学しています。ミシガン州立大学の国際学部内にあにあるイーストランシングオフィスでは、プログラムのコーディネーターや参加学生の募集、留学に向けた学生の相談受付等を行っています。

5 月に彦根市の JCMU を訪問されたばかりのアウオクシェ国際学部長が迎えてくださり、挨拶の中で、草津とポンティアック、さらに滋賀県とミシガンの友情はこれまで関わってきた人々の努力で成り立っており、大学にとっても文化のかけ橋となり大変有益であること、JCMU は滋賀県とミシガン州の強い絆の象徴であり、学生や教員に貴重な学習や研究、交流の機会を提供してきたこと、これからも次世代のリーダーを育てるために欠かせないグローバルな学びを推進していきたいとの言葉がありました。

この草津市団員を迎え入れた部屋に掲げてあったのは、なんと草津市の市旗。ちょうどこの春、ミシガン滋賀姉妹県州委員会の住所となっているイーストランシング市に届いたものです。市旗とともに同封されていた手紙には、他界した両親が、ポンティアック草津の姉妹都市交流に 1978 年当初から関わり、この交流を愛し、草津市からのゲストや学生の受け入れを長年行っていたこと、この旗をどこでどのように入手したかは不明だが、しかるべき場所で保管してもらいたい、と今は州外に住む息子からのメッセージが添えられていました。

まるで、草津市からの団員がイーストランシング市を訪問するこの日のために用意されたかのようです。旗を目の前にし、市旗を保管されていたということは並大抵のことではなく、草津市との交流に大きな貢献された方に違いない、との団員の声があり、私も団員とともに身震いがする思いでした。

草津市とポンティアック市は 2028 年に姉妹都市提携 50 周年を迎えます。ちょうどミシガン州と滋賀県の姉妹提携 60 周年の年に当たります。50 年、60 年と続き、今もこうしてある交流が当たり前のものでなく、特に、ミシガン州側の姉妹交流の担い手はみなボランティアということもあり、仕事でも義務でもなく、心から姉妹交流を愛し、人生の一部として献身的に活動してくださった方々の力を改めて心に留める瞬間でした。



草津市旗の前で、アウオクシェ国際学部長と団員

2. セントジョンズ市の野外コンサートにて

セントジョンズ市は、州都ランシング市から北に30km の場所に位置するミントで有名な街で、湖南省の友好都市です。両市の間では長年にわたり文化交流が盛んに行われていましたが、セントジョンズ市で友好都市の活動を精力的に行っていた方が昨年他界され、市内のコミュニティ内で友好都市活動の担い手が少なくなっているという状況があります。市内ダウントウンを散策していた際、たまたま入ったギャラリーで、この他界された方も所属していたクリントン・カウンティ・芸術協議会のメンバーと出会ったのをきっかけに、この芸術協議会が主催する野外コンサートで姉妹県州、姉妹都市の PR をさせてもらうことになりました。



ミシガン州の大きな公園には野外ステージが設けられていることが多く、7～8 月を中心に、各町や市で毎週のように野外コンサートが行われ、夏を存分に楽しむべく、多くの住民でにぎわいを見せています。当日は、デトロイトからの人気バンドの演奏前に、司会者が姉妹県州、姉妹都市について紹介してくれ、セントジョンズに日本の友好都市があることを知っている人はいるか？と観衆に問いかけ。シーンとしていましたが、図書館横に日本庭園や名盤があるのを知っているか？という問いかけには複数手が挙がりました。続いて、私から、来年は

湖南省から使節団がやってくる年でホストファミリーを募集していること、さらに2027 年に友好親善使節団としてセントジョンズから湖南省に行く機会もあることをアピールしました。これまで日本文化関連イベント等で日本に興味のある人たちの前でスピーチすることは多々ありましたが、今回は全く日本に関係ないコミュニティーのイベントで姉妹交流のことを知らない人ばかり。しかも、いつもは大観衆の側にいる野外コンサートのステージに立つということのでかなりの勇気を要しました。



スピーチだけでなく、芸術協議会のご厚意で、ステージ脇にテーブルを用意してもらい、ホストファミリーの募集などのチラシや滋賀の観光パンフなどを設置。琵琶湖汽船「ミシガン」で接客等を学ぶプログラムに参加した方、娘が高校生交流で滋賀に行った等姉妹交流に参加した人もいましたが、チラシ配りをしていると、コミュニティ全体では知名度はほぼないことをひしひしと感じました。とはいえ、今回協力してくださった芸術協議会のメンバーの皆さんは温かく協力的で、滋賀県との高校生交流や湖南省との絵画交流を知っているメンバーもあり、今後コミュニティに入っていく大きな助けになりそうです。

3. 元研修生と振り返る、「ミシガン」船上のプログラム

びわ湖に浮かぶ、琵琶湖汽船の遊覧船、「ミシガン」を知る人は多いと思いますが、ランシング市のランシングコミュニティカレッジと琵琶湖汽船(株)とのつながりができたことをきっかけに、「ミシガン」を教育の場として、ランシングコミュニティカレッジの学生が乗客サービスを実践し、日本語や日本文化等の授業を受けるといったプログラムがありました。このプログラムは1982 年から30 年以上にわたって続けられ、ミシガン州から約600 名もの学生が参加しました。

今月、ランシング市にて2018 年9 月に開催された大規模な同窓会以来となる同窓生の集まりが開かれるということをたまたま耳にし、参加することにしました。



あわせて、事業を創始した琵琶湖汽船株式会社元社長の重松徳氏のお墓がランシング市内の墓地にあると知り、同窓会の朝、お墓参りに行くことに決めました。墓地にたどり着いたものの、駐車場が見つからない、と焦りましたが、A～Z まである区画に張り巡らされているのは全部車道。お墓の前まで車で行け、駐車場がない理由に納得しました。とはいえ、お墓がどこにあるかわからず、A 区画から順番にとりあえず歩いて探すことにしました。こちらに来てから、ランシング市から 300 キロ以上離れたたまたま入ったスーパーでこの琵琶湖汽船のプログラムに参加した人に会う、などラッキーなことも多い私ですが、広大な敷地を前に、この日ばかりはもうだめかと希望を失いかけてました。歩き始めて一時間、ついに発見。次の駐在員の方のためにも、区画 Q であることをここに記します。



墓石の写真を掲載することにためらいはありましたが、ランシング市でも眠りたいと思った重松氏が、どれだけミシガン州の若者の未来を願っていたのか、ランシングコミュニティカレッジから来た学生や教官とのつながりや、ミシガン州と滋賀県の交流が人生にとってどれだけ意味を持っていたのか、思いを巡らせてもきりがなく、皆さんとも共有したいと思いました。過去からランシング市を中心に活動している駐在員を見守り、励ましてくれているような気さえします。

その後、同窓生の方と合流し、ランシングコミュニティカレッジのキャンパス内にある、2006 年にプログラムの 25 周年を記念してつくられた、重松氏が名称に由来する、「重松記念庭園」という 4 月の月報でも紹介した日本庭園を散策。



駐在員が持参した姉妹県州提携 50 周年記念誌に 30 年前の私の写真が！と教えてくれた同窓生

夕食会にはランシング市内外から同窓生の参加があり、自分が写った琵琶湖汽船のポスターが滋賀だけでなく京都の駅構内にも当時貼りだされたこと、接客サービスをすることで収入があったため、親が仕送りする必要がなかったこと、滋賀県との高校生交流に参加した後、琵琶湖汽船のこのプログラムに応募したことを教えてくれた方もいました。重松氏が



研修生一人一人の写真を部屋に貼って名前を覚えていてくれた、というエピソードも。こういった同窓会が今でも開催されるというそのことから十分に分かるのですが、皆さんの話を聞き、いかにこのプログラムが、重松氏が愛されていたかを再認識しました。

最後は、駐在員が持参した、ランシングコミュニティカレッジが前回の同窓会時に作成した DVD を全員で視聴。満州の大学で中国や韓国、ロシアから来た学生たちと生活を共にしたことで多文化への興味と理解を身につけ、後の実業家、そして教育者としてのキャリアに役立ったこと、「ミシガン」の構想から指揮、ランシングコミュニティカレッジから国際学名誉教授の称号を贈られ、さらに友好親善使節団の促進にも積極的に取り組み、米政財界のリーダーの日本訪問の手配にも尽力された

ことなど、重松氏の生涯と一緒にたどることができました。

重松氏とともにこのプログラムを実行に移した方として、同窓生にも広く知られている、元ランシングコミュニティカレッジ国際学部長のタイ・ソン・キム氏が 7 月に他界され、10 月にはキム氏のセレブレーション・オブ・ライフが開かれる予定です。多くの同窓生が集まりこのプログラムを振り返る大きな機会になりそうです。

ミシガンピック

1 ミシガン州政府機関が閉鎖の可能性？

10 月 1 日に州政府機関が閉鎖の可能性、というニュースが 8 月の間州内を駆け巡っています。ミシガン州議会は 10 月 1 日までに新年度の州予算を可決することになっており、例年であれば 7 月には可決するのですが、今年は至っていません。

特に教育分野への影響が大きく、10 月 20 日までに予算が成立しなければ、学校は州からの新年度の補助金の支給を受けられず、教員の配置、バスの運行、給食など幅広い影響が出るのが懸念されています。複数の学区は、無料の学校給食が継続できない可能性があるとして保護者に警告しており、保護者に対し、連邦政府のプログラムによる無料給食の対象となるかどうかを確認する用紙の記入を促しています。

州政府閉鎖は初めてのことでなく、最後に閉鎖されたのは 2007 年と 2009 年だそうです。その時は数時間程度だったため、州の運営に大きな支障はなく、学校への影響もなかったそうですが、今回学校関係者の懸念は大きくなっています。保育の分野でも影響が懸念されており、ホイットマー州知事は所得に関わらずすべての 4 歳児を就学前教育に無償化することを目指していますが、予算が不透明なため、待機期間に入っている保護者もあり、人々が制度への信頼を失ってしまうのではないかと、との声もあります。

そもそも、新年度予算が合意に至っていない理由として、民主党と共和党が異なる視点から予算案を提案していることが挙げられます。民主党は、昨年度と比較して支出増を主張している一方で、共和党は、州職員の人員から支出、多様性、公正性、包括性に関する施策に至るまで、あらゆるものの削減を主張しています。さらに、複雑な要因として、ホイットマー州知事の道路の補修に対して州の支出を年間 30 億ドル増額する計画案について、共和党が他の歳出削減を計画、民主党はこれを批判しているものの代替案がない状態です。

州政府の動きが普段の生活に影響していると感じることはこれまでなかったのですが、今回ばかりは、小学校から 10 月以降無料の給食が続くか不明との連絡があり、先に述べた用紙の記入をすることになるなど、こういった状況になって初めて、州政府の予算が生活に深くかかわっていることに気づかされます。影響が広がらないことを祈るばかりです。

※10 月 1 日、16 年ぶりに憲法で定められた期限を過ぎても新年度の州予算可決に至らず、1 週間の暫定支出法案が可決。これにより、州知事は、予算が確定するまでの間州政府機関は閉鎖せず、今週は業務が「通常通り継続される」と主張しています。